

29組の金婚を祝う

結婚五十周年を記念する金婚の祝が、町と社会福祉協議会の共催により10月6日、町文化会館で開かれました。

今年は終戦の混乱時に結ばれた、昨年より11組多い29組が招待され、この日は25組のカップルが出席、實川町長が「これから

も元気で後進の指導を」と挨拶。県から色紙、町から夫婦座布団と額が贈られ、出席者を代表して伊藤和一さん(関場)が、「50

年の結婚生活を振り返ると感無量。いつそう身を謹み健康に留意し長生きします」とお礼の言葉を述べました。

このあと助役の乾杯で祝宴に入り、出席者は結婚当時の思い出などを語り合いながら親交を深めていました。



結婚50年おめでとございます

地区	氏名	地区	氏名
寺方	實川 東一・ときよ	鳥喰新田	今井 豊・裕 枝
於幾	萩原 静・くよ	鳥喰下	大木 義守・てる
姥山	土屋 武郎・ます	立会	伊藤 武雄・とミ
姥山	平野 茂治・愛子	立会	伊藤 良一・秀
遠山	関口 静・岳代	南川岸	伊東甲子雄・静 枝
遠山	五木田三郎・喜久以	南川岸	實川 豊次・とめ
桜前	五木田重司・シズ	南川岸	早川 暉・節子
上町第5	徳川 八夫・ナツ子	新田	伊東 勤・てる
本町第2	峯川 照威・カネ	本郷	川島 襄次・楊子
古川	宇井 徳夫・よし江	新島荒場	川嶋 幸・ケイ
古川	副田 政治・登志子	西	川島 精作・アサ
両国新田	櫻井 修一・恭子	関場	伊藤 和一・美津江
東町第3	伊藤 正五・ふみ子	東	伊藤 武・あみ子
栗山第2	若梅 通好・千恵	東	平山定治郎・房
鳥喰新田	越川 泰亘・きよ		

文芸

俳句

祭り笛川越えてくる日和かな 福田 晴一

祭り果つ暮れて静もる町の空 小林 順子

朝顔の芽に水をかけ声かけて 勝又 和徳

風船を手にして孫の盆踊り 福田 幸子

朝顔や母退院の便り付き 渡部 静子

朝顔や書の中の明日の夢 齊藤 正吾

絵日記は紺の朝顔ばかりかな 戸村 静華

朝顔の萎む籬や母病める 渡部 和秋

祭り終ふ忘れ提燈軒にゆれ 今関 茂生

秋風や無口な夕餉老二人 佐保 哲一

此の家の妻に良く似し案山子かな 鈴木 南知

酒少し入りたる秋の長電話 鈴木 草庵

晩秋や新聞に載る故人の句 玉虫たけし

踏まれてもなほ咲き残る草の花 藤代 ゆう

秋天を息かけ拭くや窓ガラス (選者) 山口 一秋

短歌

お囃子の饅頭する中青年は獅子を舞ひつつ梯子をのぼる 萩原 信一

帰りに来し暗き我家のガラス戸に消防庫の灯赤くさし入つ 津田 若菜

さりげなく息は寄り吾を見下ろせり追ひ越したるを樂しめるがに 武井とく子

覆ひたる水退きしあとの畑土は縞の模様をくつきり残す 佐瀬 初音

トラックに満杯されし豚がゆくぶつかるとびに鳴き声あげて 鈴木 やす

夫の名も彫られし里の忠魂碑何時通っても塵をとどめず 秋葉 とく

ハウスの丘に見放くる千里の景吾が存在は豆粒がほど 吉岡 信子

種播きてゆく足許を砂の舞ふひと雨望み空を見上ぐる 押尾 輝子

白き杖玄関に置き義弟は彼岸参りと笑みて入り来る 向後 房

高梯子に青年二人が舞ひてゆく獅子の妙技に喝采の湧く 掛川 友代

豊作も喜び合へぬ米作り減反更にきびしき増さむ 斎藤 秀男

我のいま見たるイルカが演技すや同じ言葉がマイクより流るる (選者) 斎藤つね子